



自分の事について皆の前で話す子ども (サンマテオ)

子どもたちの「発信する力」を伸ばす

<路上の子どもたちの事業：担当スタッフからのレポート>

昨年建設した児童養護施設「子どもの家」には、現在6名の子どもが暮らしています。現在、入所した子どもたちが、現在も路上にいる子どもたちに経験を共有し、路上から出る子どもたちを増やすことができようリーダー研修を行っています。

8月27日のリーダー研修には、「子どもの家」の子ども6名が参加しました。まず、各自がネームカードを作り、名前の由来などを話した後、「子どもの家」にある物の中から、ノート、ペットボトル、人形、歯ブラシ等を並べ、子どもたちが好きなアイテムを選び、それを使って自分の事を話すという活動をしました。ペットボトルを選び、「路上で生活していた時、水で空腹をしのいだ思い出がある」と、入所前の過酷な生活を思い出す子もいれば、歯ブラシを選び、「歯の健康のために、食後は歯を磨く」と、入所後に身につけた習慣を口にする子もいました。

次に、自分を表現する言葉（好きな物、長所、短所、将来の夢等）を自由に紙に書き、ネームカードの回りに貼って発表しました。すると、「バスケットボールが好き」「自分の家を建てたい」など、自身の事に加えて、「困っているクラスメイトを助ける」「フィリピンの自然と環境を守りたい」など、自分以外を思う言葉も聞かれ、路上で家族や周囲からの愛情を受ける機会が少ない中で生きてきた子どもたちに、「子どもの家」での暮らしや通学を通して、周囲を思いやる心や協調性が育まれていることが感じられました。

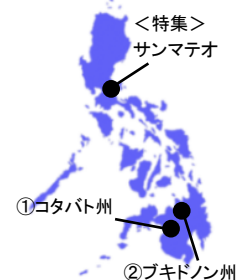
終了後、ランディ君（11歳）は、「自分について考えることができ、更にそれを皆に話すことができてよかった」と感想を述べました。子どもたちは、今回の研修で自分自身を見つめ直し、辛い過去や短所を含めた「自分」を知ること、そして、皆の前で自分の事や体験を共有する方法を学ぶことができました。

路上で過ごした日々を思い返し、それを人に話すことは、子どもたちにとって辛いことではあります。しかし、それを人に話せるようになることで、その経験を乗り越えることができ、更に路上から出て成長する姿や経験談は、現在も路上にいる子どもたちにとっての模範となることができます。これからもリーダー研修を続け、子どもたちの「発信する力」を伸ばしていきたいと思っています。



川西恵(かわにしめぐみ)
～プロフィール～
ミンダナオ島の大学で地域開発学を学んだ後、企業での勤務を経て2014年12月より現職。タガログ語の他、イロカノ語やビサヤ語を話す。

Project Site



※●はアイキャン活動地
※番号は裏面に対応

認定NPO 法人アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須 3-5-4 矢場町パークビル 9 階 TEL/FAX : 052-253-7299 メール: info@ican.or.jp

ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

Close up

I. 危機的状況にある子どもたちと「ともに」行う活動

全6事業の中から、今回はこちらの2つをご紹介します。

①紛争地の子どもたち

8月4~7日/ミンダナオ島コタバト州

平和教育の実演に生徒が参加



ピキット南部の4つの高校の教師及び生徒計33名を対象に、平和教育を取り入れた授業計画に関する研修を実施しました。対話やコミュニケーション、グループワークなどを取り入れた7つの「平和教育授業計画」

が完成し、その実演に参加した生徒のノーリンさん(14歳)は、「今までにない平和の学び方だと感じた。平和を自分自身から始めて行きたい」と感想を述べました。

②先住民の子どもたち

8月26~28日/ミンダナオ島ブキドノン州

先住民リーダーからのアドバイス



先住民に優しい教授法を確立させる研修を行い、教師や先住民リーダーら計38名が参加しました。教師はまず授業案を作成し、その後先住民リーダーに授業の練習をしました。カランシオさん(28歳)は、「授業案を作っ

ている時は正直不安だったけれど、実演してみて、教育省や先住民委員会、先住民リーダーの方々からアドバイスをもらい、授業の仕方がイメージしやすくなりました。」と話しました。

II. できること (ICAN) を増やす活動

全7事業の中から、今回はこちらの2つをご紹介します。

スタディツアー・研修事業

8月17~21日/マニラ

世代を超えた参加者が語り合う

今夏最初のスタディツアーに、10~60代の11名が参加しました。ごみ山周辺や路上の人々、子どもたちと交流し、毎日クタクタになっても、その日感じたことや学びを夜遅くまで参加者同士で語り合っていました。「今回の体験を糧に、人を笑顔にできる力を付けられるよう、もっと勉強する」「周りの現実や問題から目を背けず、支え合う社会を創っていきたい」と各自決意を固めて帰国しました。



語学教室事業

8月4・20・27日/愛知

英語クラスに3名が新規入会!

チャリティ語学教室「スマイルチケット」の英語クラスに、3名の方が入会されました。「読み書きではなく話す力をもっと鍛えたい」「留学後の英語力を維持したい」「自己流だった英語を伸ばしたい」と、ご入会の理由は様々です。体験前、「少人数は苦手かも」と言っていた方も、授業後に感想を聞くと、「先生がうまく話を振ってくれて楽しかった」と言って入会を決めてくださいました。



今日の Topic



1週間限定のチャリティTシャツ、大好評でした!

8月15~21日

JAMMINさんのデザインによる、アイキャンのチャリティTシャツが、1週間限定で販売されました。アイキャンが大切にしている言葉「Not "for" the People, but "with" the People (人々の『ために』ではなく、人々と『ともに』)」が、プリントされており、販売開始直後から「すごく素敵なデザインで、着るのが楽しみです」といった声を頂くなど、大好評でした。最終的に98,200円がアイキャンへの寄附となりました。

今日の Media

8月1日 PRIMAR ブログ マニラ事務所阿部の紹介

8月27日 JFN PARK 「ON THE PLANET」

マニラ事務所阿部が出演

今日の ICAN なる人

◎鈴木さん、素敵なメッセージをありがとうございます!

マンスリーパートナー 鈴木愛望さん

「フィリピンでの出会いを通して感じたこと」

インタビュー:9月3日

私は、学校の先生の紹介であるNGOでインターンをした時、海外から来た研修生と出会い、外国から移住した人たちの福祉に関心を持つようになりました。その後フィリピンの子どもの学習支援ボランティアをする中で、フィリピンの話を聞き、実際に自分の目で見てみたくなりました。周りの人に相談したらアイキャンを紹介され、8月のスタディツアーに参加しました。

フィリピンでは、人との距離が近く、皆優しいと感じ、ボランティアで関わっている子どもたちが毎年フィリピンに帰るのを楽しみにしている気持ちが分かりました。一方で、こんなに貧富の差があると思っていなかったので驚きました。特に、線路沿いに住む子どもたちの生活状況を目の当たりにし、汚い用水路で子どもたちが水浴びをしたりすると聞いてショックでした。でも、路上の若者たちが、「アイキャンの活動に参加して、何かを与えてもらったことよりも、自分が他の人に対して何かをできるようになったことが嬉しい」と言っていたのが印象に残っています。彼らが笑顔で頑張っている姿を見て力をもらい、自分がボランティアで関わっている子たちも、大変な中でも仲間とともに前向きに生きていけるようになってほしい、そのために自分も頑張りたいと改めて思いました。

今後は、今までのボランティアを継続しつつ、社会福祉士の資格を取りたいと思っています。また、自分が見聞きしたことや考えを共有することの大事さをツアーで知ったので、現地で自分が感じたことを日本でもいろんな人に伝えていきたいです。



【編集者から一言】 チャリティTシャツ、バッグを買ってくださった皆様、ありがとうございました!ご寄付は大切に、活動に役立てさせていただきます。